**2023年4月8日（土）第1回本部役員会**

開催地 佛教大学 紫野キャンパス 鹿渓館 地下1階 通信学友会室＋ZOOM オンライン上

時間 4月8日（土）14:00～17:00

**参加者**

本学・Zoom同時開催

★会長　高橋孝一

★総務部 部長　加村友多

★会計部 部長　齊藤二雄

企画部 部長　小谷深乃

学習活動部 部長　小川恭子

★広報部 部長　山本和紀

計：6名

★＝本学参加者

**議事進行**

（1）会長　開会挨拶

（2）議長と書記の選出（特に異議がなければ　議長は加村　書記は小川・山本）

（3）主要テーマに沿って議事進行

**主要テーマ**

1、 新本部役員体制・全国ブロック・支部の役員体制確認。

通信学生課様より情報提供を頂き、漏れがないかその場で個別に確認します。対応は最後で行う。

→各役員のメールアドレスを学生課より連絡いただく

2、 夏の祭典・秋の文化交流会・冬の行事等について現状と今後の見通しを通信学生課様より最初に
ご説明頂き、下記の議論を進めます。

1、それぞれの日程について再調整。

→夏の祭典は8/19 紫野キャンパスでの二元開催を予定

→秋の文化交流会は11/11 オンラインでの開催を予定

→冬の行事は後期に検討する

2、２元開催をどのように行うか。また、その場所はどこが最適か？

◆夏の祭典

従来の本館地下の食堂で行っていたものを、鹿渓館、大垣書店前の多目的ルームもしくは、大垣書店前のスクリーンで開催もしくは、大垣書店カフェ内にPC内蔵の大型ディスプレイを持ち込んで映しながらやってみたらどうか。
構成は昨年と同様の内容を検討している。交流会の二元開催が課題。

→上記案を元にこれから学生課と企画部で調整を行う

◆秋の文化交流会

→昨年の夏の祭典と同じ形式(スタジオからの配信)で行う。その後はオンラインでの交流会を開催
16:00～17:30 通信制向けOLCの配信
18:00～20:00 オンライン交流会(課外活動紹介, 学部交流会)

3、会食どのように取り扱うか？ その準備等はどうるすか？

スクーリングがオンラインメインでの開催となるため、本学で参加する学生は近畿ブロックの学生がメインとなる事が予想される。

→上記規模感を考慮して学生課と企画部で調整を行う

4，企画部が主導で行うとして、実現するためにどのような協力体制を築いていくか？

→大学との調整を含めて企画部部長に一任するが、支援が必要な場合は都度本部にあげる。

3、 学友会本部主導の地方ブロック（支部）学習会のテコ入れについて（教科学習会と連携する）

1、5 月 20 日 近畿ブロックの実施（予定開催地 兵庫県神戸市）事例。

中国ブロックでも、広島の中心部にて、学習会の二元開催を行った。

現地での2元開催を行うと役員のリクルート考課がある。

2元開催では、ブレイクアウトルームを使用する際に考慮が必要と感じた

近畿ブロックは、教科学習会の後で開催する。

2、日程について、全部は難しいので 2ヶ月～4ヶ月の間隔で行う（間に本部役員会を地方で行う場合も想定）。

3、会場手配について、本部で行うか、地方（開催都市の支部長）に依頼するか？

4、一般会員の集客をどのように広報するか？（学習会後の懇親会等で参加のインセンティブを高める・・・）

→地方ブロックの学習会のテコ入れは、本部役員による現地で学習会を開催することで、役員をリクルートして
立ち上げを支援するようにする。
・中国・四国は合同で学習会を開催予定…齊藤会計部長
・北海道…高橋会長
・北陸…加村総務部長、山本
・九州…加村総務部長が大野九州ブロック長と調整

→現地開催の際の事前調査は、通信費の範囲で行い出張扱いとはしない。

→出張報告書の位置付けは、今後規約との整合を行う。

4、 課外活動の活性化をどうするか？現状、さまざまな部の活動がみられない？

1、立ち上げの簡素化。

2、予算措置のありかた。

3、活動をどのように具体化させるか（対面活動も踏まえて、月 1 回程度のミーティング）
（通学課程の事例などを参考にしてみる）

本学のコロナに関連する対策の廃止に伴い、オンライン前提となっている活動は、対面でも活動可能とし、予算が使えるように調整する。

→課外活動推進部の担当は加村総務部長が兼任。これから進め方を検討していく。
課外活動の募集は4/15からかけ、規約自体は途中で改訂する形ですすめる。

5、 A 書式の簡略化、B 出張報告書と開催計画書に関して

対面活動の活発化に伴い、それぞれの事務負担を軽減する方法としてどのような方法が考えられるか？

同じく、調査・準備の行動について、出張報告と開催計画書の関係を整理する（基本は通信費で実費の行動をまかなうが、それを超える場合の取り扱いについて本部役員間で合意を持つ）。

→次回以降検討

（4）会長 閉会挨拶

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　議事録作成　小川恭子　山本和紀

以上